

特集

2

通信機器販売店に聞く
売れ筋商品・注目商品トップ15

今、企業向け通信機器ビジネス市場ではどんな商品が売れ、またどんな商品が高い評価を受けているのか。本誌はアンケートおよび電話取材を実施した。通信機器販売店100社が選ぶ、売れ筋商品&注目商品トップ15を紹介する。

ブロードバンド／IP化の波の中で企業通信システムは激しい変革に見舞われ、当然ながら通信機器販売店の取り扱い商品にも大きな変化を及ぼした。

従来の企業向け音声通信機器はメーカーの独自技術をベースとしていた。ところが、オープンなIP技術が主流になってきたことで、音声通信機器を発売するプレーヤーの数は一挙に増加。また異メーカー間の相互接続性も向上している。

その結果、通信機器販売店の商品選択の幅は、レガシー時代よりも格段に広がった。

さらにIP化は、通信機器販売店のビジネス領域にも変化をもたらしつつある。従来、音声は電話として独自の世界を形作っていた。しかし、VoIP技術が音声通話をIPネットワーク上に乗るアプリケーションの1つとしたことで、通信系と情報系の間にあった垣根がなくなりつつあるためだ。

サーバーやグループウェアソフト、セキュリティなどの情報系商材を扱う通信機器販売店は今ではもはや珍しくない。

以前なら、同じメーカー系列の販売店であれば、扱っている商品はほぼ同じだった。しかしIP化による技術のオープン化と、情報と通信の融合が進展した結果、その様相はだいぶ変わってきている。

そこで本誌は、通信機器販売店に

対し、アンケートおよび電話取材を実施し、約100社から回答を得た。なお、通信機器販売店の主力商材であるPBX／ビジネスホンは取引系列による影響が大きいことから除外している。

本特集では、この調査結果をもとに、売れ筋商品および注目商品の実態をレポート。さらに、特に大きな評判を集めたVoIPゲートウェイ、ルーター、無線LANなど15のトップ商品をピックアップした。

GWは沖電気が最高評価

現在、企業音声システムのIP化は外線側を中心に進んでいる。ここで主役となる商材はVoIPゲートウェイだが、最も高い評価を受けたのは、**沖電気工業**の「**BV1600/1270SIP**」だった。累計の販売実績は約10万台、2004年の国内シェアトップを誇る同シリーズだが、名実ともにナンバー1であることを証明したといえよう。最大の理由は「音質の良さ」。系列を問わず、幅広い支持を集めた。

次点に輝いたのは**アレクソン**の「**IPA402**」だ。こちらは安定性に加え、リモートメンテナンスやコールバックなど、付加機能の優秀さが評価された。

ほかに名前が挙がったのは、「アナログからINS1500まで幅広いラインナップ」「拠点間内線通話を簡単に導入できる」などの評価を受けた

インフォーエスの「**e-Gateway/シリーズ**」、「コストパフォーマンスの良さから、データ・音声統合の提案がしやすい」「6チャンネル収容でき、価格も安い」という**ヤマハ**の「**RTV700**」、「この信頼性で、この価格は他にはない」との声が挙がった**日立コミュニケーションテクノロジー**の「**NTシリーズ**」。

NECインフロンティアの「**Aspireシリーズ**」をゲートウェイとして評価する意見も見られた。

以上は大方予想通りの結果といえるが、意外だったのは**米クインタム**の「**Tenorシリーズ**」だ。7月1日にワ



まさに“ベストボイス”

「自動ゆらぎ吸収と遅延回復機能を備え、音声安定している」、「他社のVoIPゲートウェイと実環境で比較テストしたが音質は一番良い」など、その音質の良さに対し、賞賛の声が数多く挙がった。

BVシリーズの「BV」とは「Best Voice」の略。「徹底的に音質にこだわり、最高のVoIP製品にする」との開発者の気概と自信を込めた製品名だが、名前通りの評価を得た。「いち早く出たVoIP製品なので、お客様もよくご存知」との声も販売店から聞かれる。

BV1600SIPはPRI搭載23チャンネルとTTC2M搭載30チャンネルの2機種。BV1270SIPはFXS/BRI/ODの3機種で、いずれも4チャンネル対応。全機種が30台までの装置間迂回機能を搭載する。

イシーエスが国内販売を始めたばかりと、まだほとんど取り扱いディーラーがないにもかかわらず、複数の販売店が名前を挙げた。時間が経つにつれ、ますます評価を上げていくことは間違いなさそうだ。クインタム社のチェン・T・チェンCEOは「日本での展開は大きく遅れたが、シェアトップ3を目指す」と自信を見せている。

ヤマハがダントツ支持

ルーターで圧倒的な支持を集めたのは**ヤマハ**の製品だ。

まずはVoIPゲートウェイ機能まで



高価格も納得の性能

「非常に高額だが、高性能で安定している」。この一言が本製品に対する評価をよく言い表している。高額な対価を払うだけの価値が十二分にあるということだ。

「迂回用ISDN回線からリモートメンテナンスでき、ユーザーに売りやすい」、「コールバック機能を備え、携帯電話の通話料を削減できる」などが代表的な意見。個々の機能を評価する販売店が多かった。

「アナログポートの増設やDSUの切り離しが不要」、「ファームウェアの更新がワンプッシュ」等、工事や設定の簡単さも評判。U点を2ポート搭載し、同時4チャンネル通話が可能。ISDNダイヤルインやi・ナンバーも「今まで通りに利用できる」と評価する声もあった。

搭載したオールインワンルーター「**RT571**」。「われわれが同じものを作ろうとしたら、価格は倍以上になる」と、ある大手外資系メーカー幹部も舌を巻いたというコストパフォーマンスの高さが評価された。

もう1つは「**RTX1000/1100**」。こちらも機能・信頼性・コストのトータルで高い評価を得た。

ルーター分野ではダントツともいえる多くの支持を集めたことについて、同社AV・IT事業本部国内事業推進室の白鳥進室長は、「開発から製造まで、すべて自社で行っているのが最大の特徴。そのため品質の



世界シェア2位の新参者

国内ではほとんど知られていないが、ワールドワイドではシスコシステムズに次ぐ第2位のシェアを誇るVoIPゲートウェイメーカー、米クインタム社。今年7月によく日本にも本格上陸したが、早くも今回の調査に顔を見せた。

最大の特長は「IP回線が不安定になると瞬時にPSTNへ切り替わる」こと。通話中、ジッターやパケットロス、レイテンシーなどを常時監視し、音声品質が低下すると自動的に回線をつなぎ換える。クインタム自慢の国際特許技術だ。

さらに「拡張ボードの増設なしでPBXに接続可能」なうえ、「ポート当たりの単価が安い」ことも「ユーザーには魅力」。フュージョンのIP電話サービスに対応する。